

海光る町学園



佐世保市立小佐々中学校

所在地 佐世保市小佐々町西川内132番地

校長 百津 真人

生徒数 169名

(1年生53名、2年生59名、3年生57名)

〈校訓〉〈学校教育目標〉

英知 - 自ら進んで学ぶ小佐々中の生徒

信愛 - 心豊かな小佐々中の生徒

活力 - 健康でたくましい小佐々中の生徒

「今」「ここで」頑張る生徒を育てる教育の推進



〈今年度の重点事項〉

学力向上の取組・小中連携・地域人材の活用

学力向上プラン

☆校内研修と連動した取り組み

「わかる・できる」楽しさを味わわせる

○授業改善からの教師の指導力向上

○生徒の学習習慣の確立

(1) 校内研究テーマの実践検証

『地域とともにある小中一貫型小・中学校を核に据えたコミュニティ・スクールの推進』

～学びの場を工夫した授業づくり～

① 小佐々中学びのスタンダードの徹底

② 提案授業による検証

i 学力向上に向けた授業【全19回】・現職教育(研修)【全24回】

小中連携を生かした相互授業参観(国語・算数・数学・英語)

ii 地域人材を活用した授業

・【国語・主張のある文章を書く～座談会をしよう】

…地域の方を講師に座談会からテーマに沿った取材をする。

取材した講師を招いて少年の主張大会を開催。熱弁を振るっていた。

・【総合・小学校の先生と座談会をしよう】

…お世話になった先生に職場体験を通して成長した姿を座談会を通して伝える

・【音楽・よりよい合唱を目指して】合唱パート別練習の支援

iii 小学校への乗り入れ授業【音楽・英語・理科】

・【音楽・卒業式に向けて心を込めて歌おう】(小6年生)

・【英語・数字を英語で話そう】(小5年生)

・【英語・アルファベットの小文字を読もう】(小6年生)

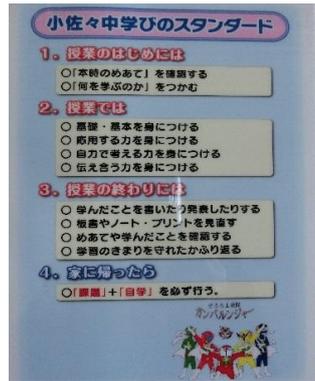
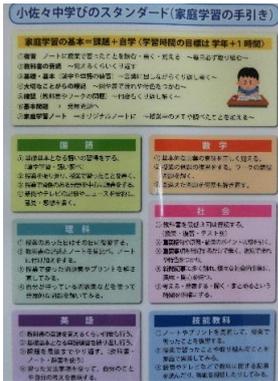
・【理科・地震】(小6年生)

…同一指導案で二つの小学校で授業



(2) 生徒の学習習慣の確立

①学習習慣確立のため、家庭学習の内容充実を図る



学習の手引き(下敷き・生徒用)
— 1年生に配布

- ・家庭学習を行うときに活用させる。
- ・専門委員会(学習部)の活動として、家庭学習調査に取り組みました。

自学の内容の幅を広げ、充実させるのに役立った。

生徒からは、「家庭学習を始める前の参考にした」「何をしたらいいか迷った時に見ていた」と声があった。

②生活ノートの活用 今日振り返りや家庭学習の記録をすることで生活・学習習慣を見直す。

小佐々っ子プラン

☆地域人材を活用した取組

- 地域の教材力を活用
- 地域の人材力を活用
- 地域のネットワークを活用

地域の教育力を生かして

小佐々で子どもを育てる

(1) 小佐々の教材力を生かした取組

<海洋体験・議場体験・職場体験学習・

ふるさと歴史発見・地域環境学習・少年水産教室>

これらの学習は、小佐々の地域性を生かしたものであり、小佐々の豊かな自然や産業といった特性を生かした取組である。特に、今年度は旧小佐々町議場を使って、生徒総会前の学級討議を行った。さらに3年生は市議会を見学した。職場体験学習では、小佐々を中心とした20の事業所が子どもたちを温かく迎え入れてくださった。

また、地域環境学習では、公民館長よりこれまでの小佐々中学校環境学習の10年にわたる取組について教えていただいた。なぜ取り組むのか。ふるさと歴史発見では、小佐々の炭鉱遺跡を巡った。

水産教室では、漁協青年部・婦人部の方たち14名に講師として指導していただいた。



(2) 小佐々の人材力を生かした取組

<教科指導・伝統文化学習・学習支援、進路学習(面接指導)>

小佐々には、伝統文化面において優れた方たちがいらっしゃる。

そこで、今年度は伝統文化学習(3年)で、書道・かかし作り・わら縄・いりこ料理・日本舞踊の5コースを設けて、講師に地域の方をお招きした。地域の方との交流の中で、伝統文化に親しんだ。10月には、文化祭の中で、講師の方たちのおかげで見事な成果を披露した。

また、高校入試に向けた面接指導において、6人の講師に来ていただき、指導にあたっていただいた。子どもたちを温かく指導し、励ましてくださった。ほかにも、読み語り・食育指導・平和学習・人権学習・いのちの講話・夏休み学習会(数学)など様々な場面で、講師を招いて学習を深めた。

(3) 小佐々のネットワークを生かした取組

＜小中連携(三校交流・かがやき会議・ボランティア清掃)・PTAとの連携・地域との連携＞

児童・生徒会ーかがやきっ子会議を実施。【小佐々支所内旧議場にて】

海光る町学園の子どもとして、目指す子ども像に向けて具体的な目標を共有する会議を開催。これからは、年に2回行っていく予定である。

小佐々中校区には、二つの小学校と一つの中学校がある。この三校の交流会を、中学2年生と小学6年生で行う。4月の入学を前に子どもたちがつながる。中1ギャップが心配される中、学校の様子をいち早く知り、4月からの入学に心躍らせていた。

親子文化交流活動【しめ縄作り・門松作り・もちつき】、PTA農園での野菜作り・あいさつ運動・下校指導、生活習慣調査、学校やPTA活動の様子を知らせる広報活動を通してPTAとの連携によって、子どもたちのよりよい学校生活に向けて活動が行われた。



3年伝統文化学習『地域の達人に学ぶ』から

～子どもたちと一緒に学んで～

○ 浜田優子先生〈日本舞踊〉

同じ時間を子どもたちと過ごすことができるとも幸せでした。私自身、教えられて育ってきたように、子どもたちもみなさまに育てられていることや私の方が得るものが大きかったように感じました。小佐々の子どもたちに会うのがとても楽しみです。

○ 永安健次先生〈いりこ料理〉

郷土の誇り、いりこを使った料理について生徒に伝える機会をいただきありがとうございました。私の話真剣な眼差しで向き合う生徒たちの表情をととても嬉しく感じました。私が伝えたかった思いを受け止めてくれたことが何よりも感激したところです。大切なものをしっかりと伝える、そして受け止めてくれる子たちがいる教育環境に誇りを感じました。

素直に吸収してくれる子がいて、大切なものを伝えることの喜びがある。こうして地域の教育力は熟成されていくのですね。

コミュニティ・スクールとしての取組

地域とともに子どもを育てる

(1) 目指す子ども像に向けた取組

- 『おさかなあいさつ』
～ 子ども版・大人版

(2) 地域の方たちの学校行事への参加

- 唱歌を歌う会 文化祭への参加
- 小学校卒業式での退場時の式歌合唱

(3) 地域人材・教材を活用した取組

- 教科・総合・各行事





(4) 地域行事への生徒・職員の参加

- 地区文化祭への参加
 - ・読書まつり ・3年合唱 ・伝統文化日舞コース発表
 - ・吹奏楽部演奏・文化祭運営手伝い
- 地区駅伝大会への参加・運営手伝い
 - ・生徒チーム（地区）、職員チーム参加、運営参加



4 成 果

地域人材の活用と学力向上を目指した取組であった。学力向上に向けて校内研修の取組と連動した。教師の授業力を向上させることで、子どもたちの学習に向かう姿勢と学びの意欲が増している。その成果が少しずつ見えてきた。教師の意欲も見える。

今年度は、本校が取り組む小中一貫型小中学校を導入したコミュニティ・スクールの推進に向けて、地域と共にある学校になるための取組に力を入れてきた。ポイントは、小中連携および地域の人材活用・地域との連携である。そこでは、地域の方との距離、さらに小学校と中学校の距離感を縮めてきた。地域の方の温かい励ましの声が増える。地域の元気な声が聞こえる。成果を感じ始めた。学校評価の高い数値が、これらを表わしている。学校に対する生徒・保護者・地域の満足度が今年度も上がっている。また、感想欄に書かれた地域・保護者の声を読んだ時に、さらに特色のある学校づくりを目指し、学力向上の期待にこたえなければならぬと感じる。顕著なものを挙げてみる。

○学校評価から

<成果>

- ・『学校の特色ある教育活動に満足している』・・・93% ←92%(前年度) ←90%(一昨年度)
- ・『教師はわかる授業を実践している』・・・84% ←84%(前年度) ←83%(一昨年度)
- ・『学校はホームページや学校便り・通信等で情報を公開している』・・・95%
- ・『生徒は好ましい交友関係があり、楽しく登校している』・・・91%

○地域の声から

「総合的に前進する小佐々中を感じます。部活・文化活動等の成果は大きい物がありました。小佐々の素直な子ども達だからこそ、伸びしろはいっぱいあると思います。生徒達にしっかりと火をつけ、その結果が次の成長・意欲につながります。先生方ばかりにお願いするのではなく、地域の人々とともに小佐々の財産である子どもも育てに力を注ぎましょう。」

<課題>

- 生徒 — 『学習・学校行事・学校生活・部活動への意欲の向上』
- 家庭 — 『家庭でのメディア利用のルール・自立に向けた生活習慣の確立』
- 学校 — 『学力向上に向けて一わかる授業の実践・生徒の主体的意欲的な学習の実践』
- 地域 — 『地域・保護者・学校の連携による理解と協力』

5 今後の課題

来年度の課題は、生徒の自主性と積極性を学習や生活の場でいかに育てるかという課題に対して、地域・保護者と共いかに取り組んでいくかだと考える。また、学力の向上のためには日々の生活習慣や学習習慣の確立が大切であることを生徒と家庭に実感させる必要がある。学校・家庭・地域が一体になって取り組まなければならないことである。なぜ学ぶのか。なぜ生活習慣を大切にしなければならないのか。家庭生活の改善が学力向上に大きく関わることを示す取組を保護者にPTA活動連携して働きかけていく。

○学力向上プラン — 「わかる・できる」楽しさを味わわせる

○小佐々っ子プラン — 地域の教育力を生かして、小佐々で子どもを育てる

この二つの目標をもって、取り組んできた。その目標に向かっている。さらに向上しなければならない。地域・保護者の期待がある。

さらに、コミュニティ・スクールとして、地域と共にある学校づくりに力を注ぐ。これからの小佐々中学校をさらに発展させ、地域と共に育つ学校に、地域を元気にする学校になる。そうして、子どもと共に生き、子どもの中に生きる教育を目指していく。